

歴朝の提督或は館屬を列擧し、一一其の出自を示せるが如き、館生修學の課程を明かにし、初めは雜字即ち語彙の學習を旨とせしも、嘉靖二十一年以後は誥勅來文と共に三者並びに肆習せしめしことを示し、今日に傳はれる諸國の雜字及び來文と、譯館の課程との關係を知らしむる如き、或は選授俸廩經費の細密に亘れる事項を詳にし、或は重要なる文史にして、唯だ此の書に於てのみ知り得べきもの少からざる等、凡そ譯館の事項を研究する上に於て、本書の有する重要なる意義は、容易に認知し得べき所なるべし。

曩に内藤博士還曆祝賀會の催さるるや、博士は記念事業の餘資を擧げて本（東洋史）研究室に寄せられたり。此の書刊行の資は悉く之に依れるものにして、富岡益太郎氏が學界の爲に本書の重刊を快諾せられしことと共に、厚く感謝の意を表せざる可らず。

（昭和二年十二月）

## 譯館の課程と東洋史學の叢書